

展示会等への出展について

1. これまでの経緯

○環境省及び参画機関は、環境技術実証事業の実施に際し、各種メディアを通じ情報公開に努めるとともに、各種イベント等を通じ普及啓発に努めることとしている。（「平成 22 年度環境技術実証事業実施要領」序 総則 5. 情報公開等に関する基本的考え方より）

○これまで各種展示会等に環境技術実証事業のブースを出展してきたが、実証申請者である出展企業から、

- ・一般の参加者が多く、技術分野や実証事業への関心は高まるが、環境機器メーカーや技術ユーザーの参加が少なく、商談に結びつかない。
- ・地方で実証を行っている例も多数あることから、地域の企業・公的機関への売り込みを図るべき。

との意見が多く寄せられた。

○このため、平成 20 年度以降は、下記条件を満たす展示会等への出展してきたところ。

- ・実証事業の分野に該当する特定の産業技術展
- ・実証結果の活用が期待できる地域の産業技術展
- ・業界関係者が集まる場での展示 等

2. 平成 22 年度の出展状況

①上記 1. を踏まえ、平成 22 年度は、以下の産業技術展に出展した。

【すまい・建築・都市の環境展 ecobuild2010】

- ・平成 22 年 10 月 13 日（水）～15 日（金）：東京ビッグサイト】
- ・実証事業より 2 分野（建築物外皮・地中熱ヒートポンプ分野）：14 企業が出展
- ・会場入場者：約 9,157 名

②技術ユーザーの集まる機会が少ない自然地域トイレし尿処理技術分野では、実証技術や海外事例の報告・議論と実証参加企業等のパネル展示を同時に行う技術セミナーを開催。

【平成 22 年度環境技術実証事業自然地域トイレし尿処理技術セミナー ～山岳・山麓・浜・離島のトイレ整備に向けて～】

- ・平成 22 年 12 月 3 日（金）：福岡県】
- ・実証事業より 1 分野（自然地域トイレし尿処理技術分野）：6 企業が出展
- ・会場入場者：約 70 名

3. 総括

- ・ 環境省事業である旨や実機の展示等により来場者の関心が高く、反応は概ね良好。
- ・ 本事業の趣旨及びロゴマークが民間企業等に普及しておらず（ecobuild2010 環境省ブース来訪者アンケート回答者の中で本事業及びロゴマークを知っていた方は、2割）、本事業のPRは、継続的に必要。
- ・ 自然地域トイレし尿処理技術セミナーでは、既存の展示会では集まりにくい技術ユーザーと実証申請者、山小屋等の実証参加者が直接対話できる機会を設けることができた。
- ・ 実証事業の分野に該当する特定の産業技術展、実証結果の活用が期待できる地域の産業技術展等に、引き続き出展すべき。
- ・ ただし、個別の技術分野で既存の展示会に出展する場合、出展ブースが小さくなり、集客が見込める場所の確保が難しくなる。このため、早期に出展希望の意向を把握し、集客の望める大きなブースとすることが望ましい。

4. 課題

- ・ 地域の企業・公的機関への情報公開・普及啓発に相応しい展示会等はあるか。
- ・ 出展の効果をより定量的に評価する方法の検討。
- ・ 情報公開・普及啓発に当たり、出展以外に効果的な方法があるか。
- ・ 実証運営機関による情報発信の取組の推進